

門真市における 学校の相談体制



子ども悩み相談サポートチーム

- 門真市教育センター内に設置（H25年度～）
- サポートチーム支援員（校長OB） 1名
カウンセラー（臨床心理士） 1名
スクールソーシャルワーカー（SSW） 1名
（精神保健福祉士）
相談員 2名
- 火曜日～木曜日 週3日

サポートチームの活動内容

(1)相談業務

いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校に関して悩む児童生徒やその保護者、学校からの電話相談や来庁相談に応じる。

(2)相談員による家庭訪問や学校支援

不登校等、課題のあるケースについて、相談員が定期的に学校に入ったり、家庭訪問したりするなど、児童生徒及びその保護者を支援する。

サポートチームの活動内容

(3)学校への支援活動

いじめ・暴力行為等の問題行動や不登校などの課題解決のため、サポートチームが学校に向き、ケース会議等を実施し、支援活動を行う。

(4)生徒指導に関する教職員の資質向上

学校の要望に応じて、生徒指導や教育相談等に関する研修を行う。

サポートチーム設置の背景

- ・いじめ事象については、喫緊の課題であり、丁寧な指導と早期対応が求められている。
- ・本市は長期欠席（不登校：年間30日以上）児童・生徒数がここ数年、府下でも割合が高い。
- ・暴力行為の発生加害者の人数は、府下でも割合が高い。

サポートチーム設置の背景

- ・学校はこれまで、不登校や問題行動等の課題のある児童生徒に対して家庭訪問等を行うことで、その課題解決を図っているが、保護者の生活環境の変化や考え方の多様化により、課題解決が困難になっている。
- ・学校だけでは対処しきれない事案については、SSW等の専門家が福祉的な視点から助言を行うことで、関係諸機関との連携を強める必要がある。

学校への専門家の配置状況



学校への専門家の配置状況(市の合計)

- スクールカウンセラー(SC)
各中学校に配置(中学校区SC) 6名
一部の小学校に配置 3名
- スクールソーシャルワーカー(SSW)
一部の小学校に配置 5名
- スクールアドバイザー・支援員(校長OB)
一部の小学校に配置 4名
- それぞれ週1日程度配置

専門家の活用状況

- ・カウンセラーの活用

校区中学校のSC、校区内配置小学校のSC、子ども悩み相談サポートチームのカウンセラーを状況に応じて適宜活用

- ・SSWの活用

配置校以外の学校は、子ども悩み相談サポートチームのSSWを活用

- ・専門家の勤務日が限られているため相談やケース会議の予定が先まで埋まっている

チーム学校の考え方

(文部科学省中教審答申 H27年12月)



「チームとしての学校」の必要性

- ・学校が、複雑化・多様化した課題を解決し、子どもに必要な資質・能力を育んでいくためには、学校のマネジメントを強化し、組織として教育活動に取り組む体制を創り上げることが必要。
- ・生徒指導や特別支援教育等を充実していくために、学校や教員が心理や福祉等の専門スタッフ等と連携・分担する体制を整備し、学校の機能を強化していくことが重要。

「チームとしての学校」の必要性

- ・体制を整備することによって、教職員が自らの専門性を発揮するとともに、心理や福祉等の専門スタッフ等の参画を得て、課題の解決に求められる専門性や経験を補い、子どもの教育活動を充実していくことが期待できる。
- ・学校において、子どもが成長していく上で、教員に加えて、多様な価値観や経験を持った大人と接したり、議論したりすることは、より厚みのある経験を積むことができる。

現在

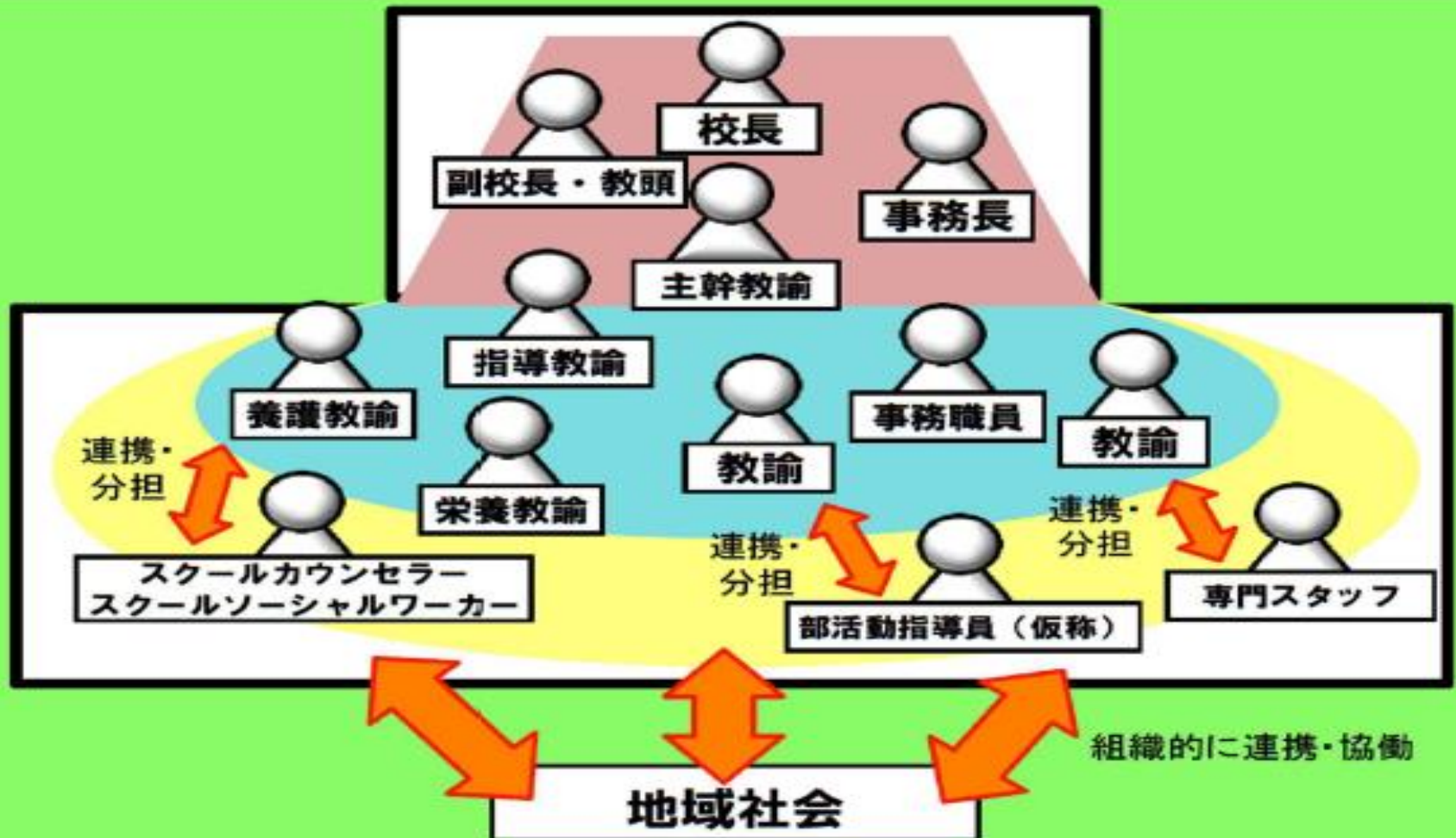
学校教職員に占める教員以外の専門スタッフの比率が国際的に見て低い構造で、複雑化・多様化する課題が教員に集中し、授業等の教育指導に専念しづらい状況

主として教員のみを管理することを想定したマネジメント



チームとしての学校

- ・ 多様な専門人材が責任を伴って学校に参画し、
教員はより教育指導や生徒指導に注力
- ・ 学校のマネジメントが組織的に行われる体制
- ・ チームとしての学校と地域の連携・協働を強化



「チーム学校」の実現による学校の教職員等の役割分担の転換について（イメージ）

教員が行うことが期待されている本来的な業務

新たな教育課題への対応のために必要な業務

- 通級指導など特別支援教育
- 小学校英語等の専科指導
- いじめ・道徳対応の強化
- アクティブ・ラーニングの視点からの不断的授業改善

・授業・学習指導
(授業計画・準備・採点・通知表作成等)

・学級経営
(学級担任等)

・生徒指導
(廊下、道徳指導等)

・学校行事
(入学式・卒業式・修学旅行・遠足等)

上記以外の業務

職員に加え、専門スタッフ、地域人材等が連携・分担することによって、より課題を上げることが出来る業務

- 子供の心理的サポート
- 家庭環境の福祉的ケア
- 部活動指導

教員以外の職員が連携・分担することが効果的な業務

- ・学校運営事務
- ・学校図書館業務
- ・ICT活用支援業務

多様な経験を有する地域人材等が担うべき業務

- 指導補助業務
(土曜日の活動支援等)

教員

教員が多様な業務を担っている

現在の役割分担

新たな課題への対応に必要な教員の体制の充実が必要

授業・学級経営・生徒指導に一層専念

教員

教員



専門スタッフ

- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- 部活動指導員
- 事務職員
- 学校司書
- ICT支援員
- など

サポートスタッフ

- 理科の実験支援員
- 学習サポーター
- など

「チームとしての学校」における役割分担